

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	リテラシー実践	
科目基礎情報							
科目番号	3S01			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	制御情報工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	教科書:安藤宏ほか「論理国語」（筑摩書房）、岩崎昇一ほか「精選 文学国語」（三省堂） 教材:「プレミアムカラー 国語便覧」（数研出版）						
担当教員	鴨川 都美						
到達目標							
1. 文章を的確に読み取り、ありありと感受し、自分なりの判断を持つことができる。 2. 他者とのコミュニケーションを図るために、語彙力を身につけ、適切な表現・伝達ができる。 3. 情報を収集・整理する能力を身につけ、その情報をもとに報告・論文を作成することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文学作品を正確に豊かに読み味わえる。			文学作品を正確に読解できる。		文学作品を正確に読解できない。	
評価項目2	自分の理解を適切に表現し、伝達できる。			自分の理解を表現し、伝達できる。		自身の理解を表現し、伝達できない。	
評価項目3	情報を収集・整理し、報告・論文を作成できる。			情報を収集し、まとめることができる。		情報を収集し、論文としてまとめることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
4							
教育方法等							
概要	日本語で書かれた文章、特に評論を多く読み、内容の理解、要約文の作成を通して、よりよく思索するための基本的な日本語力を培う。また、相手を意識して、自分の考えを適切に表現・伝達する能力の伸長を目指す。あわせて、言語としての日本語の性格を理解し、ことばによる表現・理解とは何かについての認識を深め、進んで読書する態度を培う。						
授業の進め方・方法	・前期は現代文を中心とした授業を展開する。後期は、文章表現法の基礎を学び、小論文作成を最終的な目標とする。 ・現代文の授業では、予め本文をよく読んで授業を受けることが望ましい。また、内容の理解と共に、原文を声に出して読み、日本語のもつ美しいリズムに慣れ親しんでほしい。						
注意点	・指定した教科書のページを事前に読むこと。その際には必ず辞書を使用し、ことばの意味についても理解を深めておくこと。 ・評価方法は次のとおりである 満点を100点とし、60点以上の者を合格とする。 前期（中間試験＋期末試験）35%、後期（中間試験＋期末試験）35%、授業態度・課題等30%を目安として評価する。 ・出席状況や課題などの提出状況、受講態度などを考慮し、必要と認めた場合、再試験の実施や課題などの再提出を課す。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス／論理国語： 評論一「ぼくらの民主主義なんだぜ」ほか		前期のガイダンス／論理的な文章を読み、論理の構成や展開を把握する。		
		2週	論理国語： 評論一「ぼくらの民主主義なんだぜ」ほか		難解な用語について調べ、論旨を正確に捉える。また、論旨を客観的に理解し、要約文を作成する。		
		3週	論理国語： 評論一「ぼくらの民主主義なんだぜ」ほか		論理的な文章の論旨について、その構造をとらえ拠の妥当性を検討できる。さらに、その構造・展開をとらえ、自分の意見を述べることができる。		
		4週	文学国語： 小説一「檸檬」ほか		作者や時代背景について理解をし、作品の世界に反映させて読む。細かい描写に注目し、疑問点や、登場人物に関する気づきについて考察をする。		
		5週	文学国語： 小説一「檸檬」ほか		登場人物たちがどのように変化し、関係性を築いていくのか、グループで話し合いをしながら理解を深める。		
		6週	論理国語： 評論二「思考の誕生」ほか		論理的な文章を読み、論理の構成や展開を把握する。難解な用語について調べ、論旨を正確に捉える。また、論旨を客観的に理解し、要約文を作成する。		
		7週	論理国語： 評論二「思考の誕生」ほか		論理的な文章の論旨について、その構造をとらえ拠の妥当性を検討できる。さらに、その構造・展開をとらえ、自分の意見を述べることができる。		
		8週	中間試験		中間試験までの授業内容の理解度を確認する。		
	2ndQ	9週	文章表現編： さまざまな文章を知る		10週以降に学ぶ文章の種類について基本的な知識を身に付ける。		
		10週	文章表現編： インターネットの利用上の注意		情報リテラシーについて知識を得ることで、身の回りのコミュニケーションツールを適切に利用できる。		
		11週	文章表現編： 実用的な文章を書く（敬語）		基本的な敬語の使用法について学び、状況に応じた日本語の文章を作成することができる。		
		12週	文章表現編： 実用的な文章を書く（メール・添え状）		件名、宛名、要件等について参考例を使用しながら作成することができる。また、添え状の用途を把握した上で、さまざまナバリエーションを作成する。		
		13週	文章表現編： 実用的な文章を書く（志望理由書）		序論、本論、結論を意識して、志望理由書を作成することができる。		

後期		14週	文章表現編： プレゼンテーション	プレゼンテーションの基本的なやり方を身に付ける。
		15週	答案返却・前期のまとめ	前期期末試験の答案返却・解説と前期の振り返りを行う。
		16週		
	3rdQ	1週	プレゼンテーション	夏季休暇課題のプレゼンテーションを行う。
		2週	論理国語： 評論三「『病気』の向こう側」ほか	論理的な文章を読み、論理の構成や展開を把握する。難解な用語について調べ、論旨を正確に捉える。また、論旨を客観的に理解し、要約文を作成する。
		3週	論理国語： 評論三「『病気』の向こう側」ほか	論理的な文章の論旨について、その構造をとらえ拠の妥当性を検討できる。さらに、その構造・展開をとらえ、自分の意見を述べることができる。
		4週	文学国語： 小説二「夏の花」ほか	作者や時代背景について理解をし、作品の世界に反映させて読む。細かい描写に注目し、疑問点や、登場人物に関する気づきについて考察をする。
		5週	文学国語： 小説二「夏の花」ほか	登場人物たちがどのように変化し、関係性を築いていくのか、グループで話し合いをしながら理解を深める。
		6週	文章表現編： 小論文の書き方・基礎編(1)	小論文の基礎的な知識を身に付ける。
		7週	文章表現編： 小論文の書き方・基礎編(2)	小論文の基礎的な知識を身に付ける。
		8週	中間試験	中間試験までの授業内容の理解度を確認する。
	4thQ	9週	文章表現編： 小論文の書き方・実践編(1)	小論文のテーマを見つけ、収集した情報からテーマを深める。また、小論文の構造を理解する。
		10週	文章表現編： 小論文の書き方・実践編(2)	グループ内で、それぞれの小論文のテーマを検討し、批評する。他者の意見を踏まえて、さらに自分のついて検討する。
		11週	文章表現編： 小論文の書き方・実践編(3)	論文の構造を的確に示しながら、小論文の構成を作成する。
		12週	文章表現編： 小論文作成	論文の構造を的確に示しながら、小論文を作成する。
		13週	文章表現編： 小論文作成	各自が執筆した小論文を相互に読み合い、批評し合う。
		14週	文章表現編： 模擬試験	後期期末試験に向け、模擬試験を実施する。
		15週	後期期末試験の返却・解説	各自が提出した評論文の総評を行う。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前1,前6,前13,後1,後6,後7,後8,後9
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前2,前3,前7,前14,前15,後8,後9
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	前4,前5,前8,前9,前10,前11,前12
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前4,前5,前6,前8,前10,前11,前12,前13,前15
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前4,前5,前6,前8,前10,前11,前12,前13,前15
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前1,前2,前4,前5,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前15,後1
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前2,前7,前15
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	後1,後3,後4,後5
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	後2,後10
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前14,後2,後10
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	後10,後11
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	後12
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前13,後12,後13,後14,後15

				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前13,後14,後15
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	後15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	前8,後1
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	前9
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	前9,前15
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	前9,前15
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	後6,後7
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	後12
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	前9,後7
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	前9,後12
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	前9,後12
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	後2,後11,後12,後13
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	後2,後11,後12
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	後2,後11,後12
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	後2,後11,後12
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	後2,後11,後12
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	後2,後11,後12
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2	後12
				複数の情報を整理・構造化できる。	2	前13
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	前13
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	前13
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	2	後12
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	前14
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	前14
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	前15
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	前15

評価割合

	試験	課題	態度				合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	10	0	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
	0	0	0	0	0	0	0